

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野東中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	全体的に基礎的・基本的な知識・技能に関しては、年間を通して高い定着率であった。しかし、個別に見ていくと、支援が必要な単元も見受けられるので、ドリルパークやスタディサプリ等を積極的に活用し、個別最適な学習を行えるようにしていく。また、R8年度も生徒にとって主体的な学びとなるように授業改善を意識していく。
思考・判断・表現	各教科において、単元を通して見た際の協働的な学びに課題が見られた。単元計画を見直し、計画の中で計画的に協働的な学習の場を設けていく。また、全国学力・学習状況調査の国語の「話すこと・聞くこと」の資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題や、数学の「記述式」の目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題において課題が見られたため全学年で「書くこと」に取り組める単元計画を意図した授業を行い、R8年度の全国学力・学習状況調査で引き続き改善状況を検証していきたい。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> 基礎的・基本的な知識の習得は多くの生徒ができていくが、習得した知識を技能として活用することに課題がある生徒が多い。</p> <p><指導上の課題> 習得した知識を活用することや問題演習やポートフォリオ作成等の時間があまり取れていない。</p>	⇒ 授業や家庭学習において、知識の習得にはドリルパークやスタディサプリ等を効果的に活用し、効率的に習得させる。そして問題演習等やポートフォリオの作成等、技能を活用する場面を多く設定し、実践する。【単元ごとに設定】
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 国語や社会等の記述で解答する問題において、他の説明と比較すると正答率が低く、無解答が比較的多い。</p> <p><指導上の課題> 生徒自ら課題を設定し、探究するよう学習が少なく、教師からの知識を伝達することに重きを置いた授業が多く行われてしまっているため、自ら思考・判断して、表現する場面が限られている。</p>	⇒ 反転学習を活用し、各教科において、主体的・対話的で深い学びができるよう、単元計画を行い、場面を設定する。【単元ごとに設定・R7年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか」の質問項目において、肯定的な回答の割合90%以上】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	それぞれの教科の授業や家庭学習において、ドリルパークやスタディサプリ等を効果的に活用し、繰り返し取り組みませたことで、知識・技能を効率的に習得させることができた。また、単元ごとにポートフォリオの作成等、知識・技能を活用する場面を設定することができた。その結果、全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果が平均を大きく上回ることができた。
思考・判断・表現	B	反転学習を活用し、各教科において主体的・対話的で深い学びができるよう、単元計画を行い、場面を設定したことで、思考力・判断力・表現力を高めることに重点を置くことができた。また、授業内においてICT機器を活用した共同学習の時間を設定し、共同編集アプリ等の活用で、協働的な学びを進めることができた。また、R7年度さいたま市学習状況調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか」の質問項目において、肯定的な回答の割合90%以上を全学年で達成することができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語と数学ともに知識・技能の平均正答率において、さいたま市・全国の平均を上回っており、大きな課題はみられなかった。国語と数学ともに知識・技能の習得ができる授業を継続して実施する。	
思考・判断・表現	国語と数学ともに思考・判断・表現の平均正答率において、全国平均を上回った。しかし、国語の「話すこと・聞くこと」の資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題や数学の「記述式」の目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題で、他の設問と比べて正答率が低いという課題がみられた。タブレットPCを活用した授業が増えているため、書く活動が減少しているが、国語と数学に限らず、全ての教科において、書く活動を充実させたい。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	全ての教科において、さいたま市の平均を大きく上回ることができていた。今後も継続して、既習事項を確認したり、繰り返し学習させたりして、さらなる定着を図っていく。また、知識の概念的な理解を大切に、中学1・2年生すべての生徒の知識・技能の獲得を後押しできるよう授業改善に努めていく。	
思考・判断・表現	全ての教科において、さいたま市の平均を大きく上回ることができていた。しかし、中1理科の「生命」を柱とする領域や、中1・中2国語の「書くこと」に関する正答率が他と比べて若干低くなってしまっていた。今後も、自分の考えを言葉で説明したり、プリントにまとめる活動に重きを置いていく。授業の中で様々な考えに触れながら、それぞれの生徒の思考力・判断力・表現力を高める授業を行えるようにしていく。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	授業や家庭学習において、ドリルパークやスタディサプリ等を活用して、基礎的な知識を定着させることはできているが、使用頻度に課題がある。問題演習やポートフォリオ作成等、技能を活用する場面を設定することはできているが、単元によっては十分な時間を確保できていないという課題がある。	変更なし
思考・判断・表現	B	各教科において、主体的・対話的で深い学びができるように、単元計画を行っているが、より生徒が話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができるように、教科会や研修等を充実させ、授業改善に取り組む。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)